

第4回FD研究会  
英語基礎力調査

2009年1月14日(水) 文責 持留 浩 二

英語基礎力調査について、「英語基礎力調査」担当の持留から以下のような話題を提供し、意見交流を行った。

#### 話題提供

持留： 佛教大学ではカリキュラム改革が実施された2004年度より、全新1回生を対象にして、入学時と1回生終了時にTOEIC Bridge IPテストを使用した英語基礎力調査を実施している。

今日の研究会では、まず2007年度と2008年度春学期の基礎力調査結果及び基礎力調査と同時に行われるアンケートの結果を見てもらい、佛教大学1回生の英語力の実態を知ってもらいたい。そしてその上で、今後のよりよい英語教育のために何が必要なのか、忌憚ない意見をお伺いしたい。

また以前から行っているアンケートについて、その内容を、より詳しく学生のニーズを知るためのものに改善するつもりなので、あわせてその改善案についてもご意見をお伺いしたい。

#### 意見交流

室員： 英語基礎力調査の際に行われるアンケート項目に、学習意欲以外の項目、例えば、学習効果がどれだけあったかとか、その学習によって何か役に立ったことがあったのかとか、英語学習をトータルに問うというアンケートであってもいいのではないか。

室員： 英語の授業は習熟度別で編成されているが、クラスにレベルがあるのであれば、シラバスも当然そうあるべきで、習熟度別という意識を教員も含めて徹底すべきではないか。

室員： 入試種別による学生の学力の差が大きくて授業を困難なものにしているところがある。大学として低い学力で入ってきている学生に対しリメディアル等でフォローする必要がある。

室員： レベルの低い学生のクラスは10人以下のクラスにするなどして、かなり英語力の低い学生のケアをしなければならない。

室員： 佛教大学では、資格免許がたくさん取れるという特性上、上限の履修登録単位

数が多く設定されており、なかなか一つ一つの授業に学習時間がついていかないという悪い面がある。履修モデルをしっかりと作り上げる必要がある。

室員： 語学の授業であれば、やはり GPA を導入して、何らかの共通テストで成績の 7 割くらいはつけてしまうくらいに強力にやるのも一つの方法ではないか。

室員： いろんなバラエティーある授業があってもいいかなと思う。音楽を使った楽しい授業や、本や雑誌を読めるようになりたい人のための授業、徹底的にコミュニケーションをしたい人のための授業、リメディアルに徹した授業もあっていいし TOEIC でいい点数を取るための授業があってもいい。そんな風に習熟度ではなくニーズによるクラス編成も面白いのでは。

室員： 英語圏の海外に提携校を作って数か月留学させる、そこまでいかななくても、ある程度英語力がついたらネイティブと交流できるとか、そういう目標があったら学生にとって大きなモチベーションになるかもしれない。

第 4 回研究会では、英語基礎力調査についてだけでなく、英語の授業一般について自由な意見の交流が行われ、大いに参考になった。普段は他学科の教員が英語教育についてどう考えているのか聞く機会があまりないので、今回の研究会は私にとって新鮮で有益なものとなった。

#### まとめ

英語基礎力調査はただ単に調査で終わってしまっただけではいけない。その調査結果をいかにして授業改善に結び付けていくのかを考えることが FD としてしなければならないことである。正直 FD だけでできることは限られている。それでもできる範囲で調査結果を活用すべきだし、どのように活用すべきなのかも今回の研究会で徐々に明らかになってきた。それらを以下にまとめてみたい。

- (ア) アンケートの内容を、より詳しく学生の英語学習への意識を知ることのできるものに工夫する（これはすでに出来上がっており 2009 年度の調査で実施予定）。
- (イ) 英語基礎力調査の結果、そしてその結果の分析を佛教大学の英語教員（専任非常勤を問わず）にフィードバックする。同時にアンケートの結果も教員間でシェアし、学生のニーズや実態を分かってもらう。

以上の点については FD だからこそできることだと思うので、少しでも英語の授業改善に貢献できるよう 2009 年度も FD 活動を続けていきたい。英語教員に学生のニーズを伝え、その一方で各英語教員から意見を聴取し FD 活動に反映させる、そんな風にリエゾンの役割を果たすことができれば理想である。